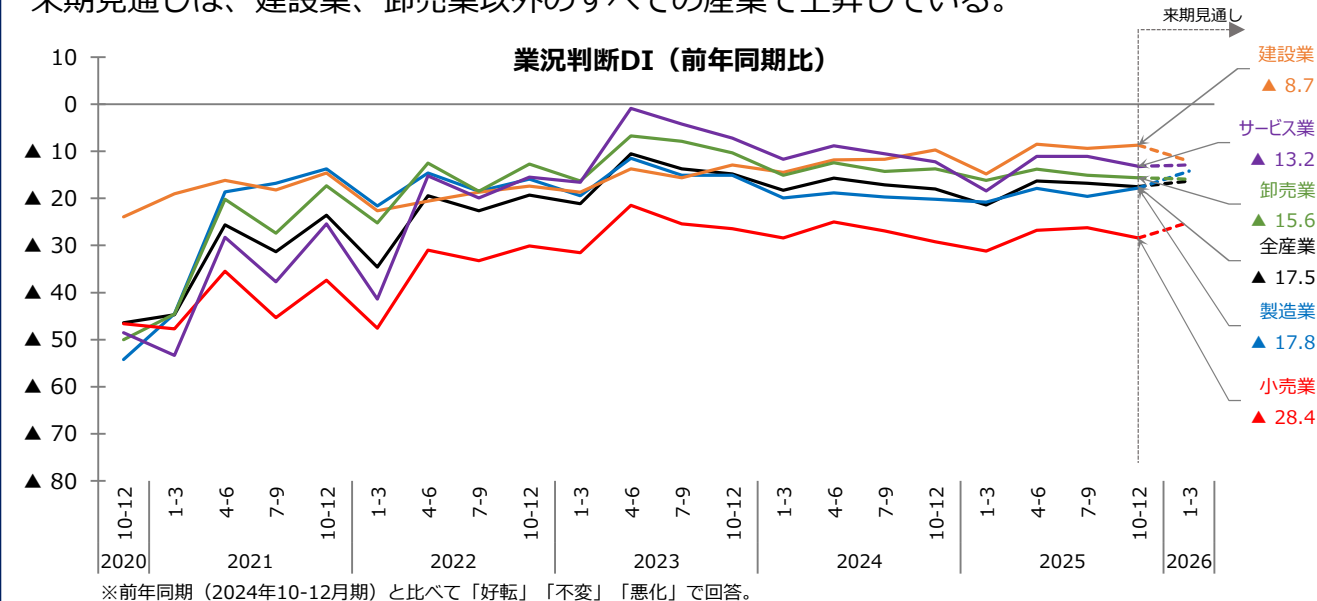


第182回中小企業景況調査（2025年10－12月期）のポイント

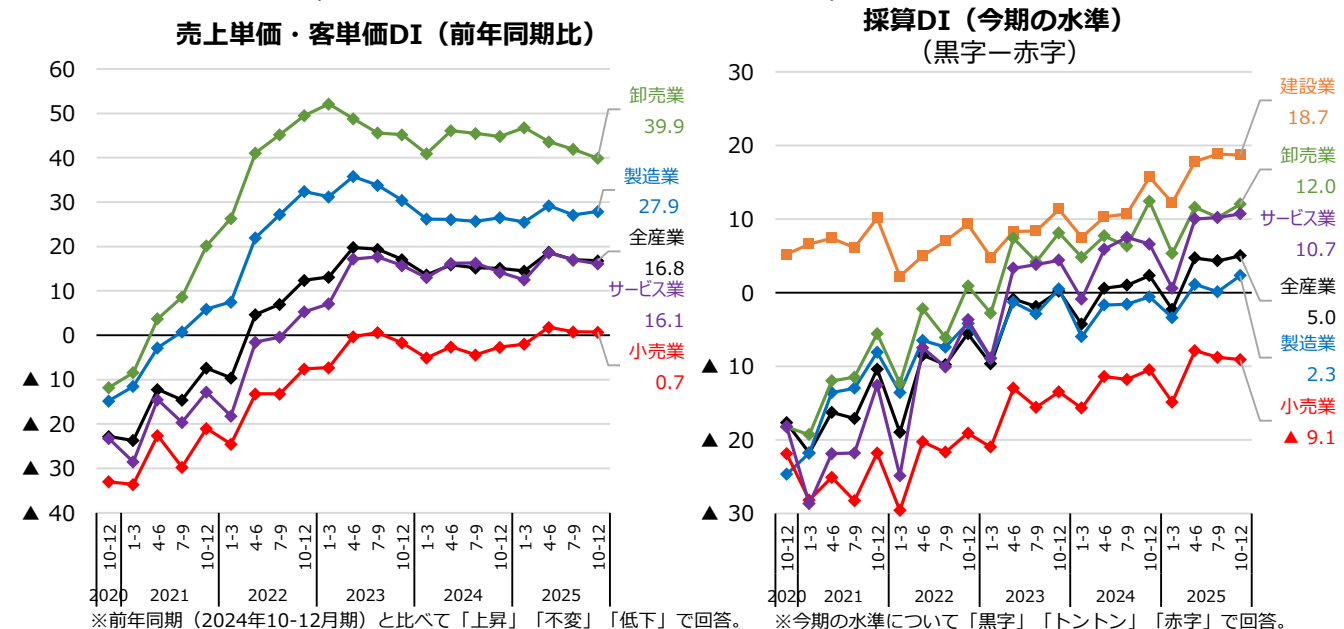
1. 業況判断DIは、2期連続して低下

全産業の「業況判断DI（前年同期比）」は、前期（2025年7-9月期）から0.7ポイント減（▲17.5）と2期連続して低下。産業別では、製造業で1.8ポイント増（▲17.8）、建設業で0.7ポイント増（▲8.7）と上昇、一方、小売業で2.2ポイント減（▲28.4）、サービス業で2.1ポイント減（▲13.2）、卸売業で0.5ポイント減（▲15.6）と低下している。来期見通しは、建設業、卸売業以外のすべての産業で上昇している。



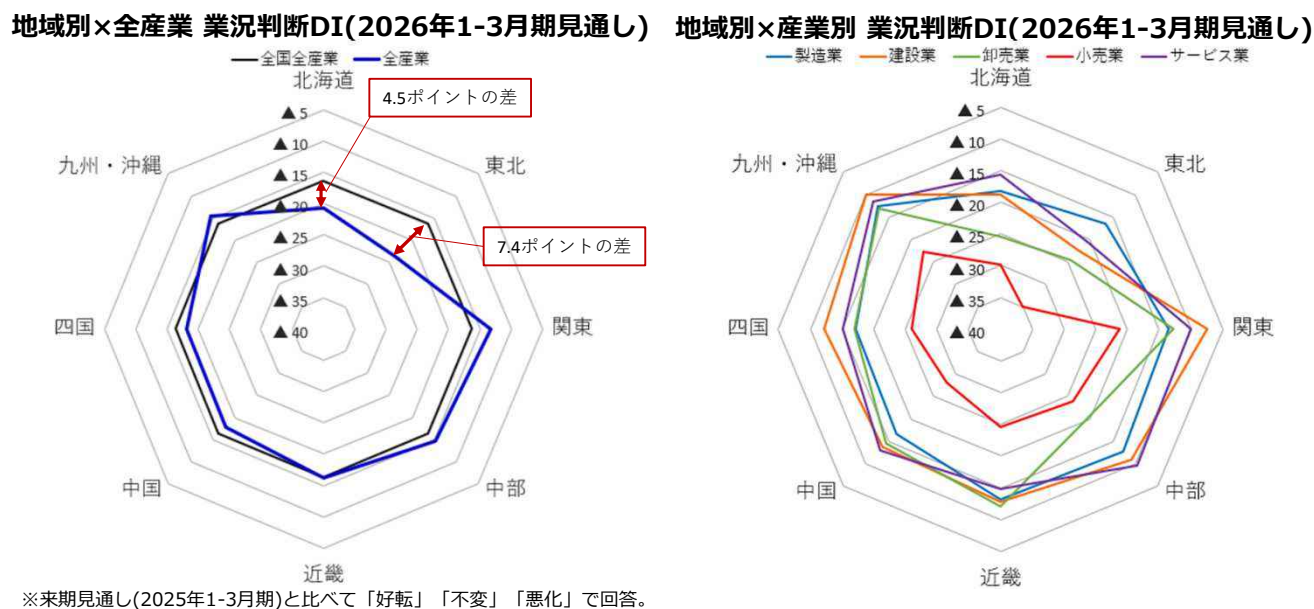
2. 小売業の採算DIは、マイナス圏が続く

「売上単価・客単価DI（前年同期比）」は、2021年4-6月期に卸売業がプラスに転じ、他の産業も追随し、2025年4-6月期以降に小売業もプラスとなったことで、すべての産業がプラス圏で推移している。一方、「採算DI（今期の水準）」を見ると、2022年4-6月期以降、すべての産業において上昇傾向であるが、小売業はマイナス圏内で推移している。



3. 東北、北海道は全国平均より下回る見通し

全産業の「業況判断DI（来期見通し）」の2026年1-3月期見通しは、全国全産業(▲16.3)と比べて東北が7.4ポイント、北海道が4.5ポイント下回っている。地域別×産業別に見ると、各地域のトップ産業は、東北が製造業、関東、四国、九州・沖縄が建設業、近畿が卸売業、北海道、中部、中国がサービス業となっている。全地域で、小売業が最も低い水準となっており、なかでも東北、北海道では▲30以下と低い。



4. 中小企業のコメント

◆対前年比増収増益となった。**鉄道、自動車工場向け塗装装置の大型プラント受注により、工場は繁忙**となっている。[他に分類されない生産用機械・同部品製造業]

◆物価高で仕入価格（生産補助備品・工具）が上がっているが、製品コストに反映できなく採算面に影響が出ている。[鉄骨製造業]

◆海外向けで大口案件が決まり、受注は安定してきた。また、投資した生産設備が稼働すれば、生産も安定する見込み。[その他の繊維業]

◆大手飲料メーカー関連の取引がサイバー攻撃によって完全に止まっており、代替も難しいため、業況が非常に悪化している。大消費地が優先されているので、田舎に割り当てが来るのはだいぶ先の見通し。[酒小売業]

◆気温の高い時期が続いており、冬物の売上が伸びない。仕入れ価格と送料の高騰がひっ迫しており、価格転嫁に迷っている。[婦人服小売業]

◆受注は増えているが、対応できる職人確保が課題である。また、外注確保も困難であることから、ある程度受注を抑えつつ、対応していかなければならない状況となっている。[とび工事業]

◆猛暑により呉服業界全体の需要が低迷。秋に入りようやく引き合いが徐々に戻りつつあるものの、仕入れ価格は上昇を続けており、価格転嫁ができずに利益率が低下している。[その他の衣服卸売業]

◆顧客ニーズに応じて自社サービスを変化させていくことの効果を実感している。具体的には、WEB制作技術をAI関連受託開発へ応用し新たな受注を獲得している。[アプリケーション・サービス・コンテンツ・プロバイダ]

◆紅葉時期の宿泊は例年と変わらなかったが、土日の悪天候と熊報道により日帰り入浴が減少。11月以降は宿泊予約も減少している。熊が今後も問題になると経営が厳しくなると思う。[旅館、ホテル]

【調査要領】
1.調査時点 2025年11月15日時点
2.調査対象 中小企業基本法に定義する全国の中小企業（調査対象企業数18,838、有効回答企業数17,901、有効回答率95.0%）
3.自由回答数 4,162件（上記の他、「中小企業景況調査報告書」p.11、「中小企業景況調査資料編」pp.79-80に掲載）
※中小企業景況調査の自由回答（フリーコメント）
項目を選択する方式ではなく、業況判断の背景についての感想や意見を自由に記入する方式であることから、各企業が抱える課題が表れている。